shindaiwa®

# 電動高圧洗浄機

## 取扱説明書

型式

JM620TP

| ⚠ 警告 |
| --- |
| ご使用前に、必ず取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。<br>取扱説明書の指示内容を守ってください。<br>守らなかった場合は、死亡または重傷事故を起こす恐れがあります。 |

## はじめに

この度は弊社の電動高圧洗浄機をお買い上げいただきありがとうございます。
本機を廃棄されるときは、産業廃棄物として関連法規にに基づいた処理を
行ってください。処理にお困りの場合は、お求めの販売店にご相談ください。

●この取扱説明書は、電動高圧洗浄機の正しい取扱い方法、簡単な点検等について
記載してあります。本機の取扱いを誤りますと事故や故障の原因となりますので、
ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みください。

●本機の取扱いは、この取扱説明書の内容を理解し、安全な取り扱いができる人が
作業を行ってください。

●本機を貸し出す時は、必ず取扱説明書を添付してください。

●取扱説明書は、いつでもご覧いただけるように大切に保管してください。

●取扱説明書を紛失・汚損・破損したときは、お求めの販売店にて購入してください。

■この取扱説明書では、注意事項のランクを下記のように区分しています。

⚠ 危険：取扱を誤った場合に、死亡または重傷を負う危険及び火災等重大な
物的損害が発生する危険が切迫して生じることが想定される場合。

⚠ 警告：取扱を誤った場合に、死亡または重傷を負う可能性及び火災等重大な
物的損害が発生する可能性が想定される場合。

⚠ 注意：取扱を誤った場合に、損傷を負う危険が想定される場合及び物的
損害のみの発生が想定される場合。

『⚠ 注意』に記載した項目でも、状況によっては重大な事故に結びつく可能性が有ります。
いすれも重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

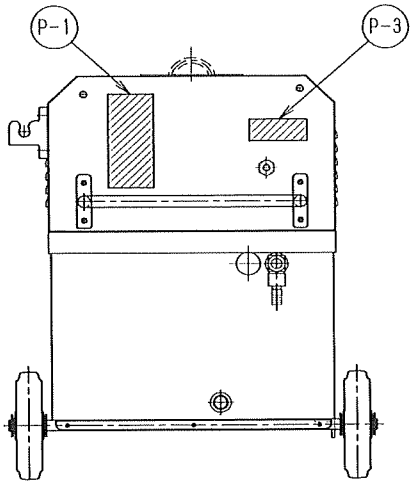
# 目　次


1. 安全上の注意 …… 1～2
2. 機械の用途と警告 …… 3
3. 安全装置 …… 3
4. 外観図 …… 4～5
4－1 外観寸法図 …… 4
4－2 構造と名称 …… 5
5. 始業前点検 …… 6
6. 運転準備 …… 7～9
7. 運転操作 …… 10～11
7－1 始　動 …… 10
7－2 洗浄開始 …… 10
7－3 停　止 …… 10
7－4 水抜きあとかたづけ …… 11
8. 長期保管 …… 11
9. 輸送・移動時の注意 …… 11
10. 万一に備えて …… 12
11. 噴射ガンの扱い方 …… 13
12. 点検・整備 …… 14～16
12－1 点検項目と点検周期 …… 14
12－2 点検要領 …… 14～16
13. 故障時の対応 …… 17～18
13－1 サーマルリレーのリセット方法 …… 18
14. 仕様書 …… 19

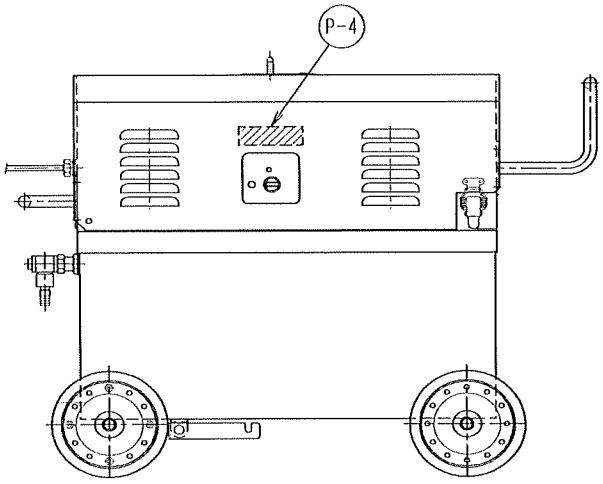
# 1. 安全上の注意

危険・警告ラベルの貼付位置
警告ラベルが見えにくくなったり、破損した場合は、新しいラベルをご購入の上、
新しいラベルを指定場所に貼ってください。

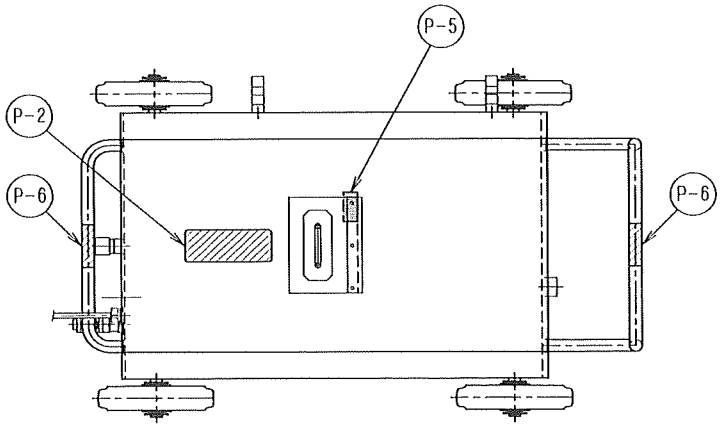
危険・警告ラベルの貼付位置




(制御盤表面)




(カップリングカバー上面)

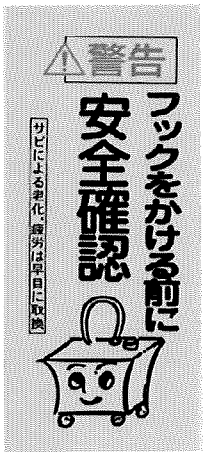



危険・警告ラベル

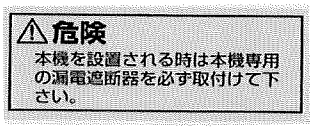
P-1




P-2




P-3



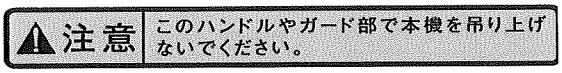

P-5




P-4




P-6



## ⚠ 危 険

1. 漏電遮断器付きの電源を使用してください。
2. 本体にアースを接地してください。アース結線なしでは使用しないでください。
3. 電源コードが傷ついたまま、使用しないでください。
4. 電源コードを油・薬品や高熱・鋭利なものに触れさせないでください。
5. 雨天での洗浄作業をしないでください。
6. 本機がぬれたときは、完全に乾かせてから使用してください。
7. 本機は水にぬれる所や湿気の多い所で保管はしないでください。
8. 作業中、万一、本体や電源コードから発火発煙したときは、機械から離れ、まず、自分自身の安全を確保してください。

## ⚠ 警 告

1. 素足のままで洗浄作業をしないでください。
2. 洗浄中、噴射ガンを確実に握ってください。反動で飛ばされる恐れがあります。
3. 噴射ガンの先を人や財物、ペット等に向けないでください。
4. 危険を感じた場合は、すぐに作業を中止してください。回転が不安定な場合や異常な音がした場合もすぐに作業を中止してください。
5. 本機を吊り上げるときは必ず吊フックを使用し、ハンドルやガードは使用しないでください。吊り上げる前に安全確認を行ってください。(錆や金属疲労に注意してください。)

## ⚠ 注 意

1. 密閉した室内で本機を使用しないでください。
2. 運転中に本機が移動しないよう、水平で安定した場所に設置し、車輪には必ず車輪止めをしてください。
3. ガソリン・シンナー・ガスなど引火性がある危険物の近くでは使用しないでください。
4. 吐水ホースおよび噴射ガンは確実に接続してください。
5. 吐水ホース内は高圧となります。損傷して補強層が露出した吐出ホースは使用しないでください。また、油・薬品や高熱・えいりなものにふれさせないでください。
6. 病気のときや体調が悪いとき、妊娠中の場合、またアルコールや体の機能に影響をおよぼす薬を飲んだときは作業を行わないでください。
7. 作業時は、保護メガネ・手袋などの保護具を着用してください。
8. 運転スイッチを入れるときおよび使用しないときは、必ず噴射ガンの引き金レバー安全ロックで固定してください。
9. 吐水ホースや噴射ガンを取り外す時は、運転スイッチを「停止」にしたうえで、噴射ガンのレバーを引いて吐水ホース内の圧力を抜いてください。
10. 点検・整備を行うときは、必ず運転スイッチを「停止」にし、電源コードを外してください。
11. 改造したり、部品を取り外して使用しないでください。

# 2. 機械の用途と警告

## 1. 用途

本機は、モーターの回転により高圧ポンプを回転させ、清水を6MPaの高圧に加圧し、
高圧水を専用ノズルより噴射して被対象物を洗浄する機械です。

①工事現場の建設機械、工事車両の泥汚れ等の洗浄。
②外壁等の洗浄作業。
③道路、側溝等の洗浄作業。
④コンクリートの打設作業。
等の用途にてご使用いただけます。

## 2. 誤用途、誤使用の警告

①人や動物の洗浄を行う機械ではありません。誤使用されると重大事故、
死亡に至る危険があります。
②高圧水により洗浄作業面(高圧水が直接当たる面)にキズを付けたり、
塗装が剥がれる等の恐れがあります。
車のボディ、革製品、食品、衣類ほか等、破損の可能性が有る物は、
洗浄しないでください。
③薬品等、清水以外の水は使用しないでください。
④誤使用による財産等への被害は保証対象外となります。

# 3. 安全装置

## 1. 過負荷防止サーマルリレー

モーターに通常以上の負荷がかかると定格電流値以上の電流が流れ、
配電ボックスの中にあるマグネットスイッチのサーマルリレーが検知して
モーターへの供給電源を遮断します。
サーマルリレーが作動した時は、原因を確認して異常を取り除いた後、
リセットボタンを押して復帰させてください。

## 2. アンローダーバルブ

洗浄圧力による配管内圧力が制御調整値(仕様書圧力欄明示)に
達すると、アンローダーバルブが作動して、過度な圧力の上昇を防ぎます。
また、噴射停止中はポンプ圧力をゼロ(無負荷)にする機能もあります。

## 3. 空運転防止 (フロースイッチ)

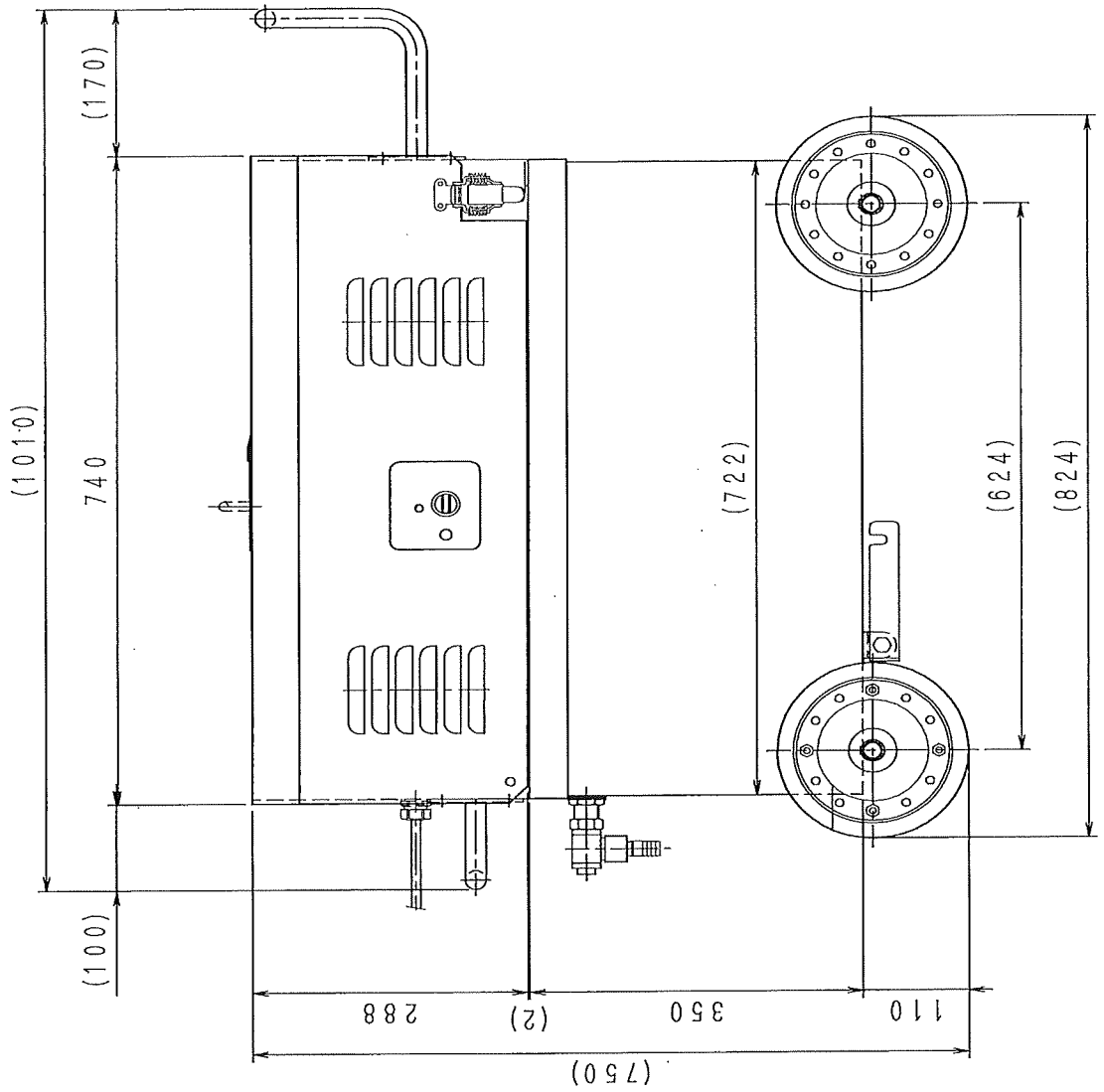
フロースイッチにより吸水が検知出来ない時にモーターを停止させます。
運転スイッチを入れた時 約20秒間はフロースイッチの検出を無効にしています。

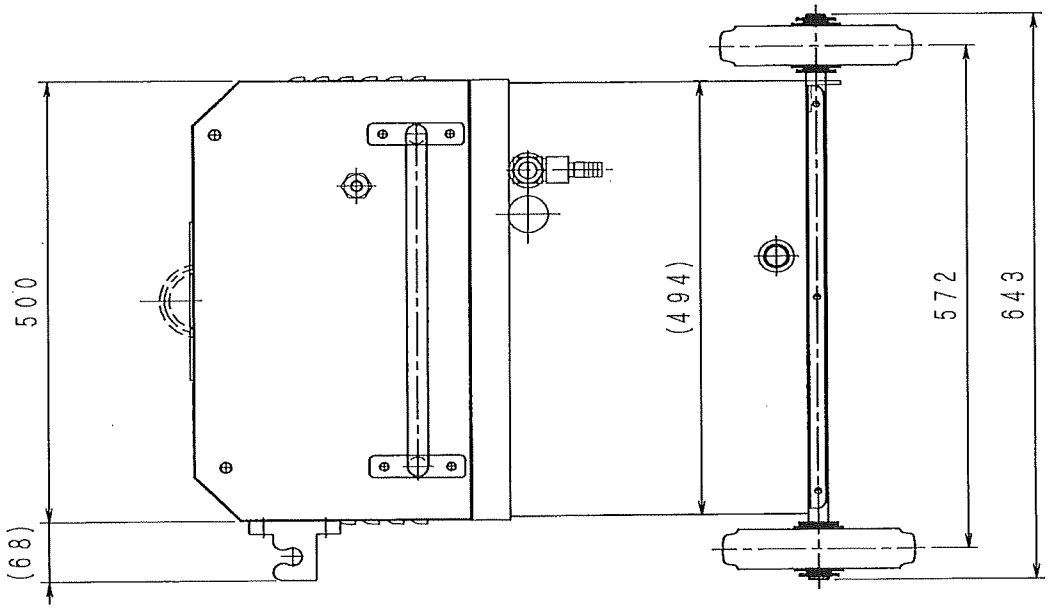
## 4. 噴射ガンの引金レバー安全ロック

運転スイッチがONの状態で、不意に噴射ガンの引金レバーが引かれた場合、
高圧水が噴射して人畜や財物に危害、損傷を与える恐れがあります。
このような予期せぬ事態を回避するため噴射ガンの引金レバーには安全ロックが
ついています。

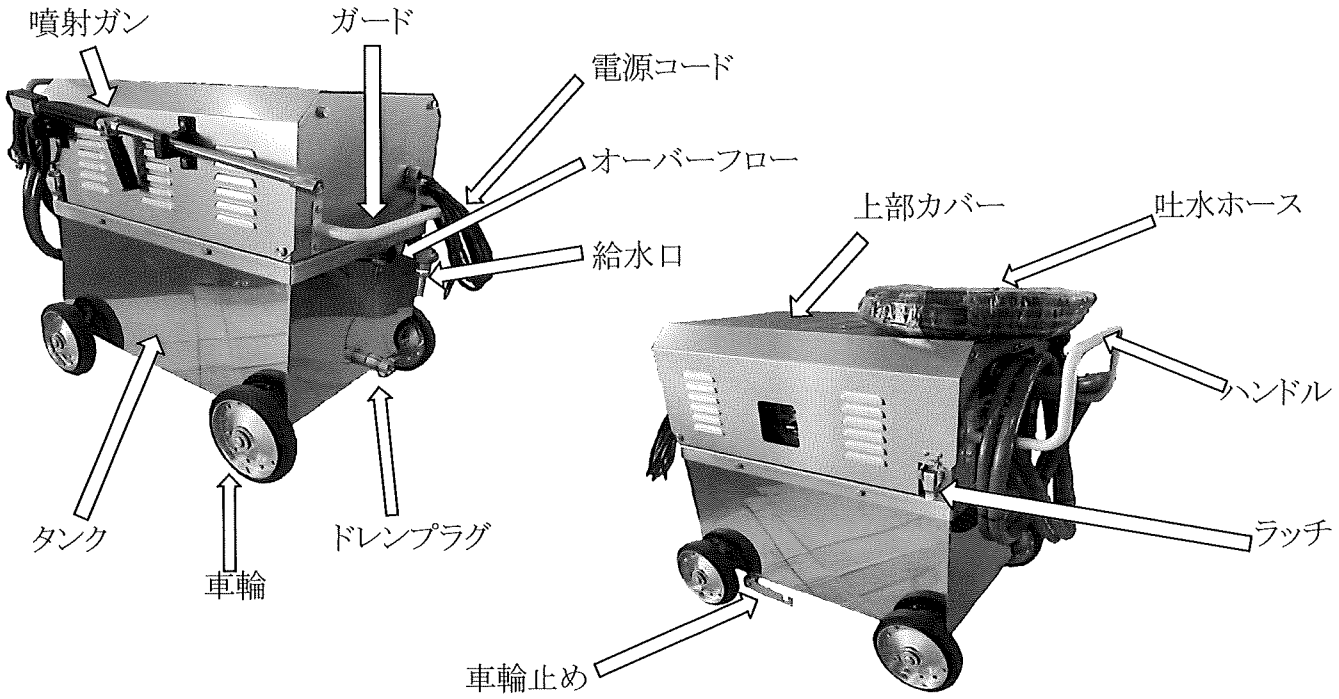
# 4. 外観図と名称

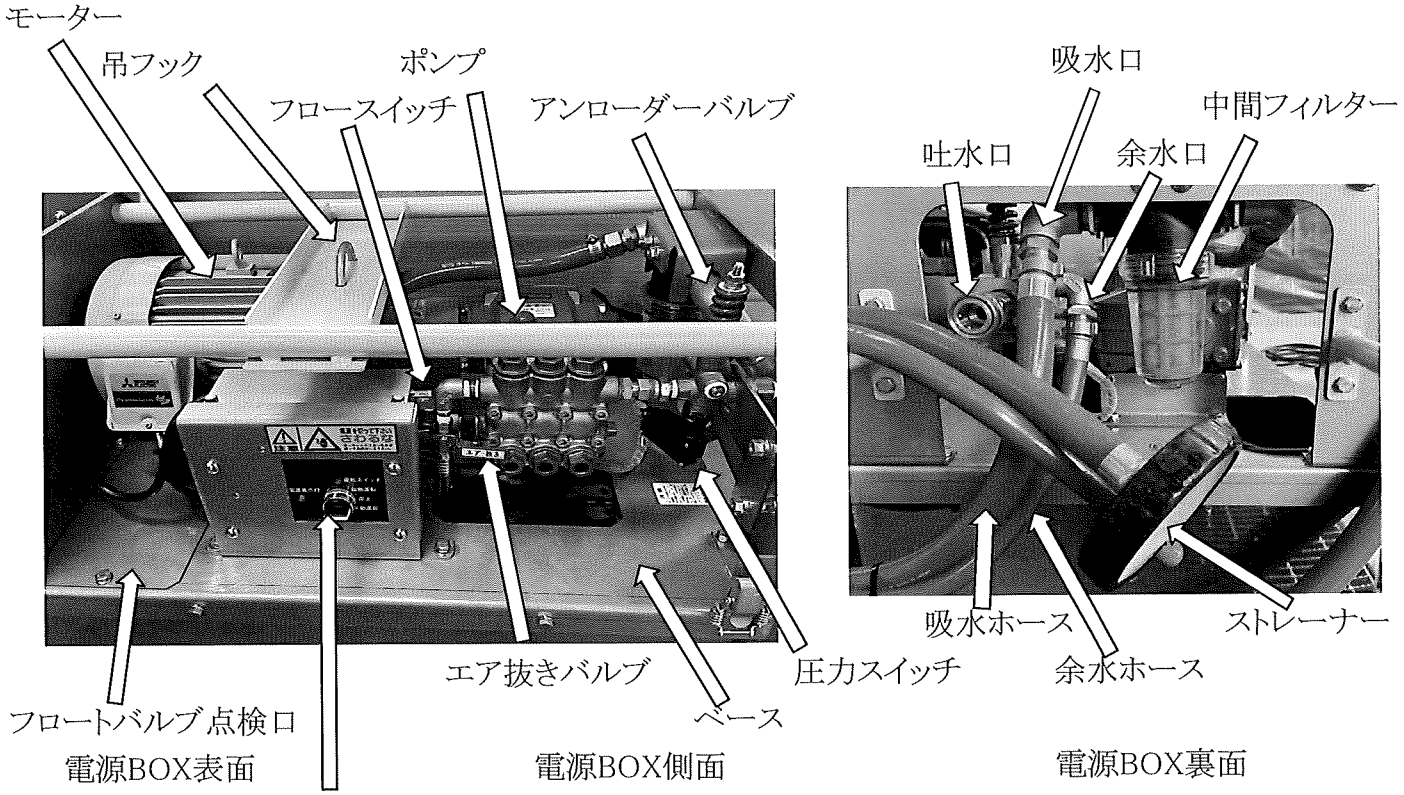
## 4－1 外観寸法図

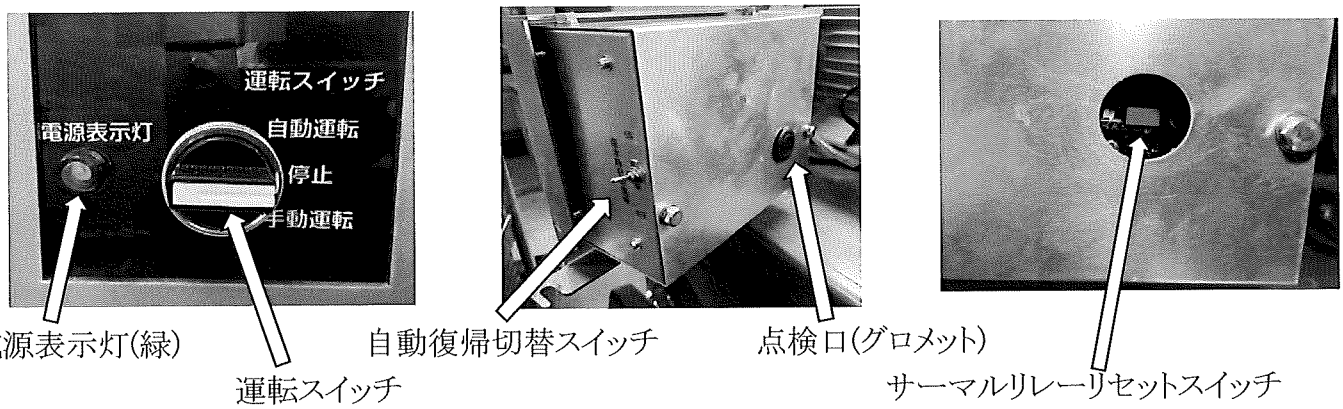


4－2 構造と名称


噴射ガン
ガード
電源コード
オーバーフロー
給水口
タンク
車輪
ドレンプラグ
上部カバー
吐水ホース
ハンドル
ラッチ
車輪止め


モーター
吊フック
ポンプ
フロースイッチ
アンローダーバルブ
フロートバルブ点検口
電源BOX表面
エア抜きバルブ
圧力スイッチ
ベース
電源BOX側面
吸水口
中間フィルター
吐水口
余水口
吸水ホース
ストレーナー
余水ホース
電源BOX裏面


運転スイッチ
電源表示灯
自動運転
停止
手動運転
電源表示灯(緑)
運転スイッチ
自動復帰切替スイッチ
点検口(グロメット)
サーマルリレーリセットスイッチ

## 5. 始業前点検

**⚠ 注 意**

- 点検は、電源コードを接続する前に行ってください。
- 周辺に関係のない人がいないことを確認してください。

(1)ポンプオイルの点検

オイルの量・汚れ・漏れの点検を行います。オイル量が規定レベルより少なくなっている場合は給油してください。白濁や汚れが有る場合は、オイル交換が必要です。

オイルの点検・給油・交換は、「12.点検・整備」の項に従って、行ってください。

また、オイル漏れがある場合は、お買い求めの販売店か弊社営業所に修理を申し付けください。

(2)吸水ストレーナーの点検

コシ網に目詰まりや破れがないか点検します。目詰まりがある場合清掃してください。

破れがある場合は交換してください。

吸水ストレーナーの点検・交換は、「12.点検・整備」の項に従って、行ってください。

(3)中間フィルターの点検

内部フィルターに詰まりがないか点検します。詰まりがある場合は清掃してください。

中間フィルターの点検は、「12.点検・整備」の項に従って、行ってください。

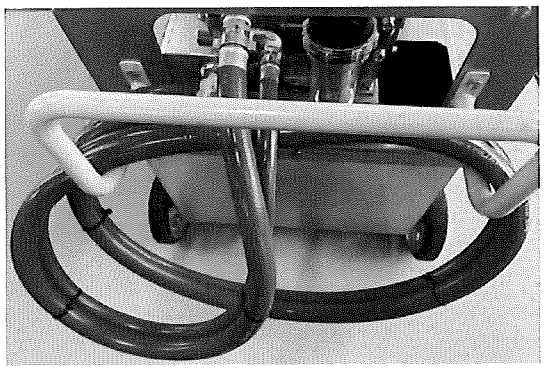
(4)吸余水ホースの点検

吸余水ホースに穴などの傷がないか点検をします。

穴などがあれば交換してください。

接続部にゆるみがないか点検します。

ゆるんでいる場合は、増し締めしてください。

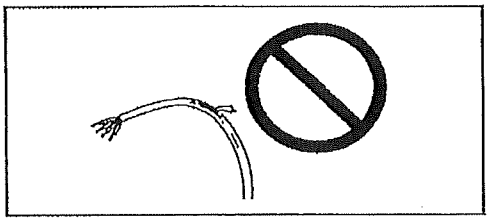


(5)吐水ホースの点検

補強層が露出しているような深い傷がないか点検します。深い傷がある場合は、交換してください。

(6)電源コードの点検

電源コード外皮や端子圧着部などに損傷がないか点検をします。損傷がある場合は、お買い求めの販売店か弊社営業所に修理を申し付けください。



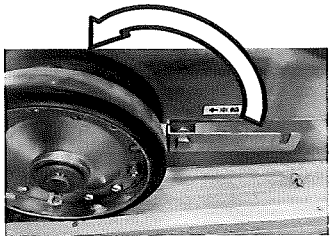
## 6. 運転準備

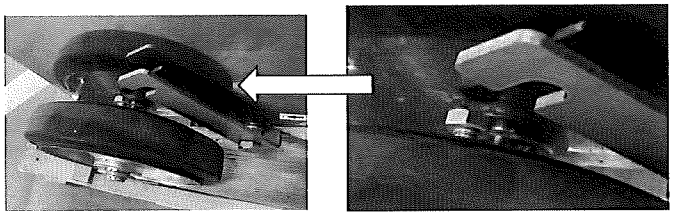
**注 意**

・運転中に本機が移動しないよう、水平で安定した場所に設置し、車輪には必ず車輪止めをしてください。

(1) 車輪止め

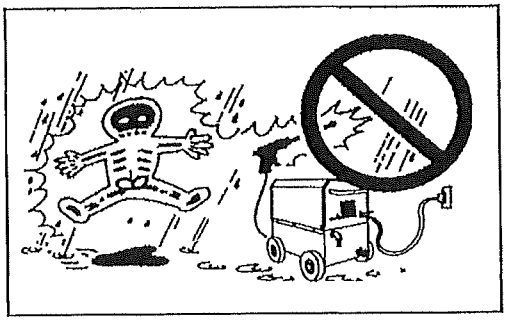
車輪止めを下の写真のように車輪に設置されているボルトに掛けていただき車輪が動かないようにしてください。





**危 険**

- 漏電遮断機付きの本機専用電源を使用してください。
- 本体にアースを接地してください。接地しないままでの使用しないでください。
- 電源コード接続するときは、運転スイッチを「停止」にしてください。



(2) 電源コードの接続

三相200V 20A以上の配電設備された漏電遮断器付きの電源に、電源コードを接続してください。同時に電源コードのアース接地も行ってください。

電源に接続すると、操作パネルの電源が点灯します。(緑色のランプ)

※発電機を電源に使用する場合は、出力15kVA以上を使用してください。

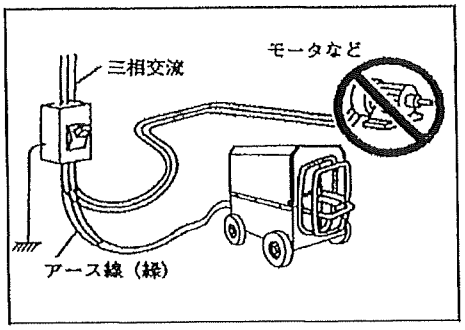
**注 意**

電源コードの線は4色があります。

緑　　：アース線

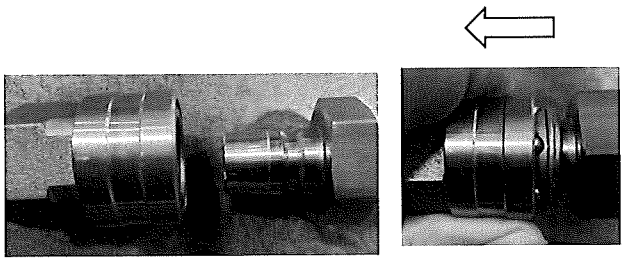
白　　：S相(マイナス線)

赤・黒：R相又はT相(プラス線)



(3)噴射ガン・吐出ホースの接続

噴射ガン接続口・吐出ホースの接続口・本体
吐出口はワンタッチカプラーになっています。
メスカプラーのリング部をスライドさせながら
オスカプラーを差し込んでください。
この時、噴射ガンの引き金レバー
安全ロックを掛けておいてください。



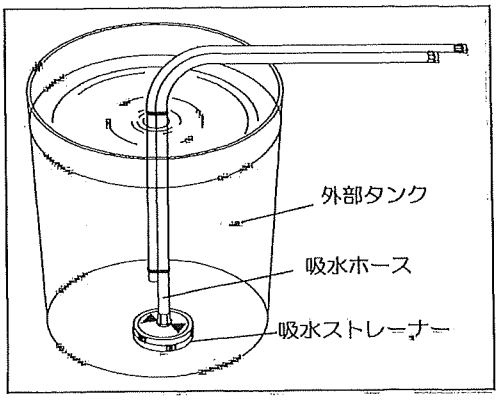
(4)タンクへの給水

1. 下部のタンクを使用する場合

給水口タケノコに水道ホースを差し込み、ホースバンドで固定します。
水道栓を開け給水してください。
※給水量は 30L/min以上必要です。
※タンク内のボールタップにより、満水になると給水が停止します。
水位が下がると自動的に給水されます。

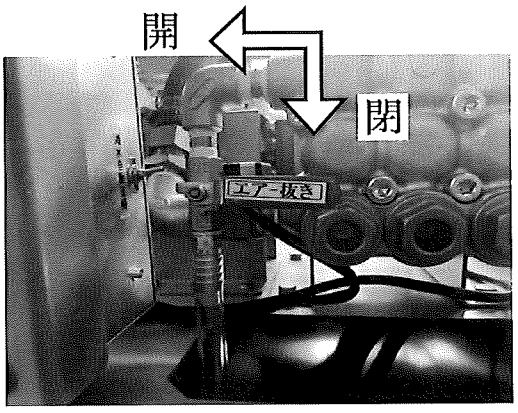
2. 外部タンクを使用する場合

外部タンクに吸余水ホース先端の 吸水ストレーナーを水中に深く沈めて下さい。
※吸込揚程(タンク水面から本機吸水口までの高さ)が
1.5m以内となるよう設置してください。
これを超えて使用すると、ポンプのエア噛みが多く
発生しポンプの寿命が低下します。
※必ず清水を使用してください。
河川・池・工事用水などの泥・砂・ゴミを含んだ水を
使用すると、吸水ストレーナー・中間フィルターが
目詰まりを起こすだけでなく、ポンプ・バルブ類が
故障する原因となります。



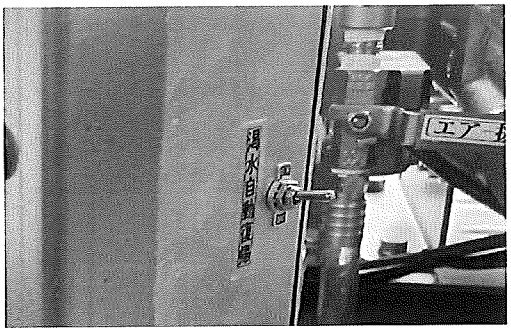

(5)ポンプエア抜き作業

ポンプ横のエア抜きバルブを開けてください。
(バルブのハンドルを縦にしてください。)
運転スイッチを「手動運転」にしてください。
バルブ下部より水が出ればエア抜きは
完了です。
運転スイッチを「停止」にしてください。
エア抜きバルブを閉じてください。
(バルブのハンドルを横にしてください。)
※エア抜きを行わないとポンプは空運転状態になり故障の原因となります。



(6)渇水時の自動復帰について

給水不足による渇水が発生した時にスイッチを
「ON」にしておくと120秒後に再起動します。
「OFF」にしておくと再起動しません。
高所揚水として使用時に自動復帰にしておけば
洗浄機の運転スイッチを入れ直さずに
便利にご使用いただけます。




## ⚠ 注 意

- 渇水自動復帰スイッチがONの場合、渇水後120秒で自動復帰しますので
  予期せぬ噴射に注意してください。
- 給水をしていない状態での使用は空運転になりますのでおやめください。

# 7. 運転操作

## 7－1 始　動

**⚠ 注 意**

- 雨中で使用しないでください
- 本機がぬれたときは、完全に乾燥させてから使用してください。
- 噴射ガンの先を人や財物、ペット等に向けないでください。
- ガソリン・シンナー・ガスなど引火性がある危険物の近くでは使用しないでください。
- 本機上部カバーを開けたまま使用しないでください。

(1) 自動運転

運転スイッチを「自動運転」にすると、洗浄ガンの開閉に伴って圧力スイッチが作動しモーターの起動と停止が自動的に行われます。
省エネと騒音低減を目的とした機能です。
通常は、自動運転をご使用ください。




(2) 手動運転

運転スイッチを「手動運転」にすると、モーターは常時運転になります。圧力スイッチが故障してモーターが起動しない場合や 水漏れやエア噛みなどのトラブルが発生した時に 手動運転を応急的にご使用ください。

## 7－2 洗浄開始

(1) 噴射ガンの引金レバー安全ロックを解除し噴射ガンをしっかり持ってください。
(2) 洗浄対象物に噴射ガンを向け、引金レバーを引くと洗浄作業が出来ます。
（噴射ガンの扱い方　13頁参照）

## 7－3 停　止

(1) 噴射ガンの引金レバーを元に戻すと噴射が止まります。
(2) 完全停止する場合は、運転スイッチを「停止」にしてください。
(3) 洗浄終了後

噴射ガンの引金レバーを引き 吐水ホース及び噴射ガンの圧を抜いてください。
噴射ガンの引金レバー安全ロックを掛け、ガン掛けに収納してください。
水道栓（蛇口）を閉じて凍結期間は、凍結防止対策を行ってください。

**⚠ 注 意**

- 本機が故障・破損したまま使用しないでください。
- 運転中に停電などで電源が切れたときは、運転スイッチを「停止」にし電源コードを外してください。
- 噴射ガンで本機本体や内部を洗浄しないでください。

7－4　水抜きあとかたづけ

**⚠ 注　意**

- 冬期間、水が凍結する恐れがある地域では必ず水抜きを行ってください。
- 凍結による不具合などは、メーカーの保証対象外となりますのでご注意ください。
- 5分以上の空運転はしないでください。

(1)水道栓を閉じてください。 水道ホースを本機給水口より外してください。
(2)タンクドレンキャップを外しフロートタンク内の水抜きを行ってください。
(3)吐水ホース、噴射ガンの残圧を抜いた後、吐水ホースを吐水口より取外してください。
(4)吸水ストレーナーを水から引き上げ 洗浄スイッチを「手動」にしてポンプを回してください。
　約20秒でフロースイッチが働き停止します。
(5)中間フィルターに溜まっている水をハウジングを外し捨ててください。
(6)配電設備の漏電遮断機を落とし電源コードを取り外してください。

## 8. 長期保管

上記の水抜きとあとかたづけを行ってから以下の場所に保管してください。
(1)ホコリがかからない場所
(2)熱、直射日光が当たらない場所
(3)子供などの手が届かない場所
(4)火気のない場所
(5)平坦な場所
(6)近くに危険物のない場所

## 9. 輸送・移動時の注意

輸送・移動するときには、上記のあとかたづけを行ってから下記の点を守ってください。
(1)車輪止めを必ず行ってください。
(2)洗浄機に衝撃をあたえないようにしてください。
(3)トラックの荷台等に載せるときは、車輪に車止めをあててロープなどで固定してください。

クレーン・ユニックなどを使用する場合は 下記の点を守ってください。

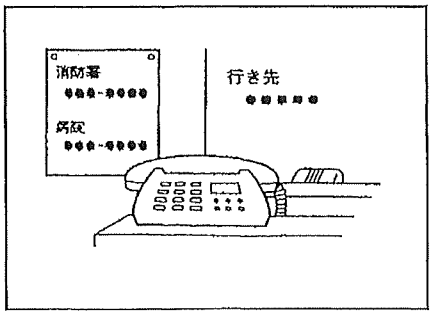
**⚠ 注　意**

- 指定の吊フック部吊ってください。
  ハンドルやガードは使用しないでください。
- フック・ロープは300kg以上の耐荷重に耐えられるものを使用してください。
- 吊るした本機の周辺には絶対に近寄らないでください。

# 10. 万一の事故に備えて

●作業前に

万一の事故に備えて、現場事務所入口近くや掲示板、
電話機のそばなどの目につきやすい場所に医療機関、
消防署(救急車)の電話番号を明記しておいてください。
特に消防署への連絡の場合、救急車誘導のために
目標地点(住所、目標となる建物など)も明記しておくと、
的確な連絡に役立ちます。
単独で作業する場合、どこで作業を行っているかが
他人にもわかるような方法(掲示板等に作業場所を
メモするなど)を講じてください。負傷して動けなくなり帰れない場合の対処として有効です。

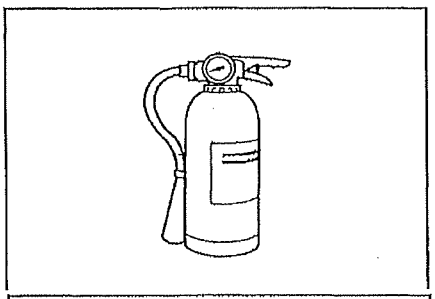



●発火に対する備え

**危 険**

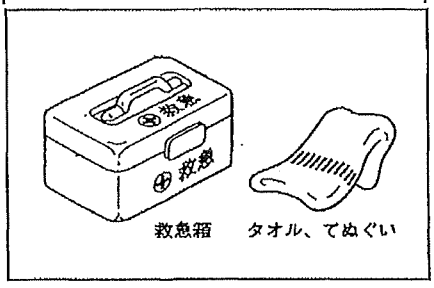
- 作業中、万一、本体や電源コードから発火発煙したときは、機械から離れ、まず、
  自分自身の安全を確保してください。

自分の身体を、火災やその他の障害から守るように
してください。
類焼しないように注意してください。
消火器で消化するか ショベルなどで砂などを
かけ消化してください。

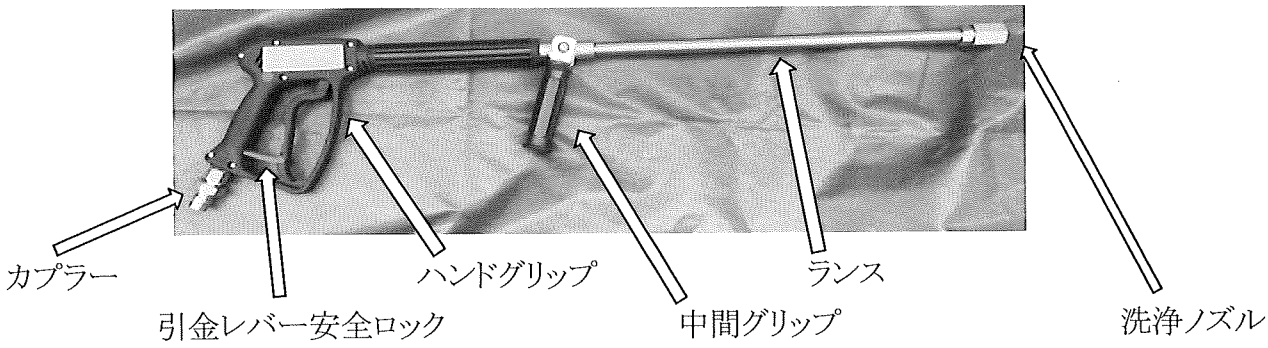


●ケガへの備え

万一のケガへの備えとして、応急手当用品の入った
救急箱を用意してください。
出血をともなうケガについては、止血用に
汗を拭き用のタオルや、手ぬぐいなども
有効ですので、常時余分に作業現場へ携帯することをおすすめします。

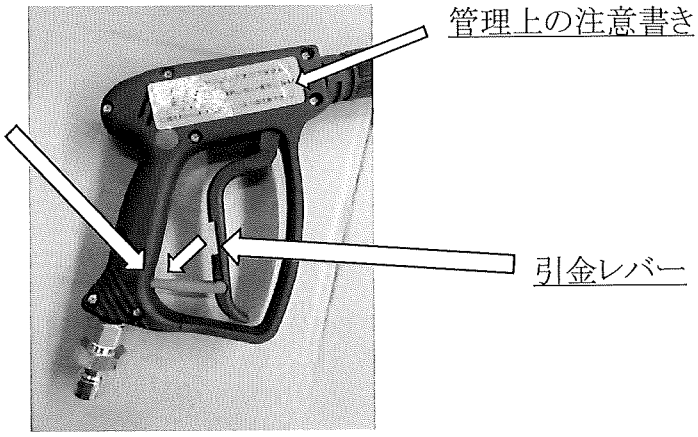


# 11. 噴射ガンの扱い方




## 11－1 洗浄をしていない時・保管時

洗浄していない時や保管時は下の写真のように、引金レバー安全ロックを掛けてください。
※引金レバー安全ロックを掛けておけば 予期せぬ誤噴射を防ぐことが出来ます。
※引金レバー安全ロックが完全に掛かっているかの確認もしてください。
完全に掛かっていれば 引金レバーは動きません。




## 11－2 洗浄時

噴射ガンのレバー安全ロックを外し、引金レバーを引くと噴射されます。

## 11－3 洗浄を一時的に中断する時

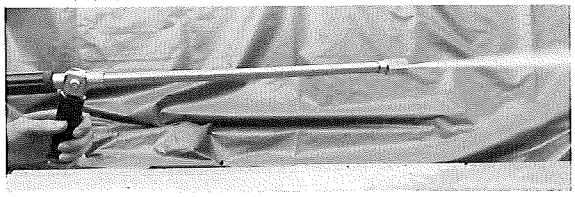
噴射ガンの引金レバーを戻し、引金レバー安全ロックを掛けて下さい。

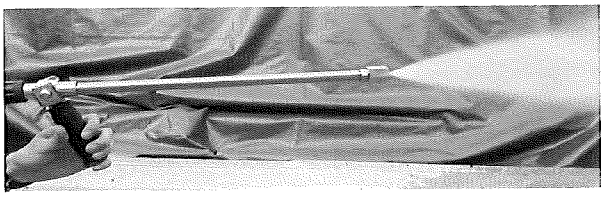
## 11－4 洗浄終了する時

運転スイッチをOFFにし、引金レバーを引き吐水ホース及び噴射ガン内の残圧を抜いてください。噴射ガンの引金レバー安全ロックを掛け噴射ガン掛け等に収納して下さい。

## 11－5 噴霧パターンの変更方法

中間グリップを手前に引くと直噴になり 前方に押すと円錐状に広がります。





# 12. 点検・整備

本機を安全にご使用頂くために、必ず点検・整備を実施してください。

**⚠ 注 意**

- ポンプ圧力の点検・調整以外は、運転スイッチを「停止」にし、電源コードを外してから行ってください。
- 運転直後は、モーターやポンプが高温になっていますので、冷めてから行ってください。
- 始業前点検以外は、専門技術者が行ってください。
- 交換部品は、必ず純正品を使用してください。
- 廃液や消耗部品を廃棄するときは、産業廃棄物として関連法規に基づいた処理を行ってください。処理にお困りのときは、お求めの販売店にご相談ください。

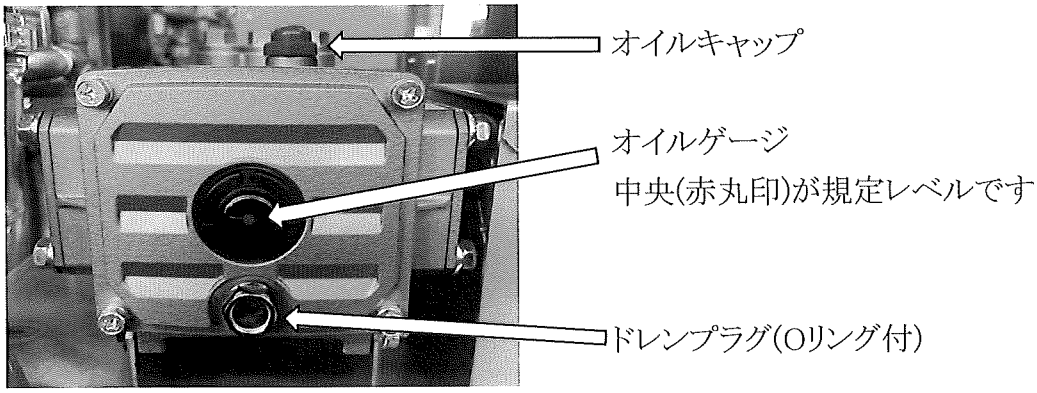
## 12－1 点検項目と点検周期

| 点検項目 | | 始業ごと | 50時間ごと | 100時間ごと | 500時間ごと |
|---|---|---|---|---|---|
| ポンプオイルの点検・給油 | | ○ | | | |
| ポンプオイルの交換 | 1回目 | | | ○ | |
| | 2回目以降 | | | | ○ |
| ポンプオイル漏れの点検 | | ○ | | | |
| 吸水ストレーナーの点検・清掃 | | ○ | | | |
| 中間フィルターの点検・清掃 | | ○ | | | |
| 吸余水ホースの点検 | | ○ | | | |
| 吐水ホースの点検 | | ○ | | | |
| 電源コードの点検 | | ○ | | | |
| タンクの清掃 | | | ○ | | |

## 12－2 点検要領

(1) 洗浄ポンプクランク室内のオイルの点検

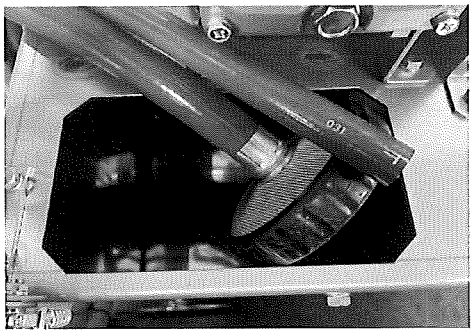
①オイルレベル・オイルの白濁や汚れを目視にて確認してください。



②オイルが減っている場合は、オイルキャップ(赤色の栓)を開け補給してください。
※多く入れ過ぎるとポンプ回転時オイルが吹きますので注意してください。
③白濁や汚れがある場合は、オイル交換が必要です。
ドレンプラグの下に廃油受けを置きドレンプラグをゆるめ、オイルを抜いてください。
オイルが抜けたらドレンプラグを締めオイルキャップより新しいオイルを約0．6L
入れてください。ポンプオイルについては エンジンオイル 10W－30を使用して
ください。
※オイルを抜くときは、地面に垂れないよう容器に受けてください。
ドレンプラグにはOリングがありますので交換をしてください。

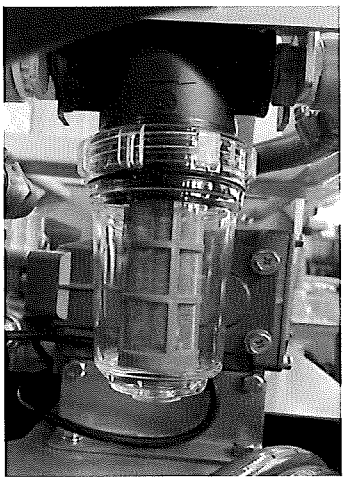
(2)吸水ストレーナーの点検

①上部カバーを開け 下部タンク内にある
吸水ストレーナーを目視確認してください。
②目詰まりがある場合は、水洗いなど
清掃してください。
③破れがある場合は、交換してください。



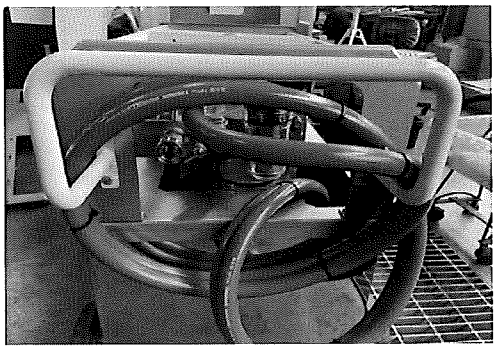
(3)中間フィルターの点検

①中間フィルターを目視確認してください。
②目詰まりがある場合は、水洗いなど
清掃してください。
フィルターハウジングは 反時計回りに
回していただければ外れます。
③破れがある場合は、交換してください。



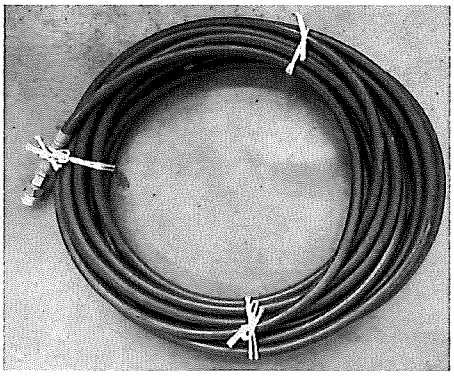
(4)吸余水ホースの点検

①吸余水ホースに穴などの傷がないか
目視確認をしてください。
穴などがあれば交換してください。



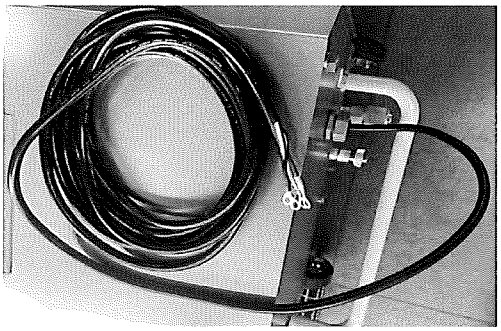
(5)吐水ホースの点検

①補強層が露出しているような深い傷が
ないか目視確認をしてください。
深い傷がある場合は、交換してください。



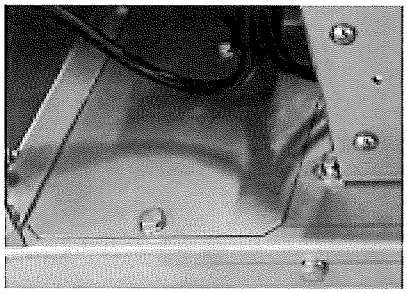
(6)電源コードの点検

①電源コード外皮や端子圧着部などに
損傷がないか目視確認してください。
損傷がある場合は、お買い求めの販売店か
弊社営業所に修理を申し付けください。

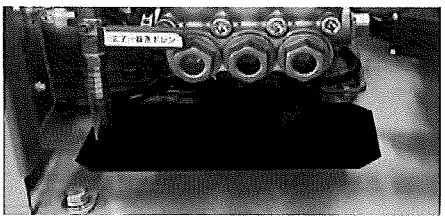


(7)タンクの清掃

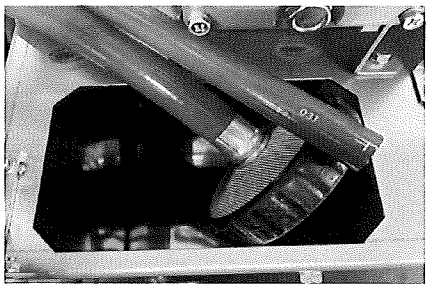
①モーター・ポンプのベース板の開口部・フロートバルブ点検口よりタンク内部を
目視確認してください。汚れがある場合は水洗いなど清掃してください。



フロートバルブ点検口



ポンプ下部開口部



ポンプ後ろ開口部

# 13. 故障時の対応

本機の調子が悪いときは、次の表にしたがって点検してください。
正常に戻らないときは、お求めの販売店か弊社営業所に修理を申しつけてください。

| 症　状 | 推　定　原　因 | 処　　置 |
|---|---|---|
| モーターが起動しない | 電気がきていない | 電源との接続の確認 |
| | 電源容量不足 | 適正容量の電源を使用する |
| | サーマルリレーが作動 | 異常を取り除き、リセットする |
| | 凍結などによるポンプのロック | 販売店へ修理依頼する |
| モーターが停止する | 吸水ストレーナーの目詰まり | 吸水ストレーナーの清掃 |
| | 中間フィルターの目詰まり | 中間フィルターの清掃 |
| | 電源ブレーカーが作動 | 電源系統の三相共に200Vあるか確認する |
| | サーマルリレーが作動 | 異常を取り除き、リセットする |
| | 渇水停止スイッチの作動 | 吸水系統の見直し |
| 運転音が大きい | 電源の欠損 | 電源系統の三相共に200Vあるか確認する |
| | ポンプにエアを噛んだ状態 | エア抜き作業を行う |
| 吸水・吐出しない | 吸水ストレーナーが水中に沈んでいない | 水タンクに水を補給する |
| | 吸水ホースの接続がゆるい | 増し締めする |
| | 吸水ホースの破損 | 吸水ホースを交換する |
| | 吸込み揚程が高すぎる | 水タンクを高い位置に移動させる |
| | | 本機を低い位置に移動させる |
| | 吸水ストレーナーの目詰まり | 吸水ストレーナーの清掃 |
| | 中間フィルターの目詰まり | 吸水ストレーナーの清掃 |
| | ポンプにエアをかみ込んだ状態 | エア抜き作業を行う |
| | ポンプ吸水・吐水バルブの固着 | 販売店へ修理依頼する |
| | 噴射ガンノズルの詰まり | 圧搾空気などで掃除 |
| 圧力が上がらない | ポンプのパッキン類の損傷・摩耗 | 販売店へ修理依頼する |
| | アンローダーバルブの損傷・摩耗 | 販売店へ修理依頼する |
| | 噴射ガンのノズルチップ摩耗 | 販売店へ修理依頼する |
| | 吸水ストレーナーの目詰まり | 吸水ストレーナーの清掃 |
| | 中間フィルターの目詰まり | 中間フィルターの清掃 |
| | ポンプにエアを噛んだ状態 | エア抜き作業を行う |
| | 吸水ホースの接続がゆるい | 増し締めする |
| 噴射水が一定しない | ポンプにエアを噛んだ状態 | エア抜き作業を行う |
| | ポンプ吸水・吐水バルブにゴミ噛み | 販売店へ修理依頼する |
| | アンローダーバルブにゴミ噛み | 販売店へ修理依頼する |
| | 吸水ストレーナーの目詰まり | 吸水ストレーナーの清掃 |
| | 中間フィルターの目詰まり | 中間フィルターの清掃 |
| | ポンプにエアを噛んだ状態 | エア抜き作業を行う |

## 13－1　サーマルリレーのリセット方法

サーマルリレーが作動し停止した場合、何らかの原因によりモーターが
過負荷状態になっていると考えられます。
原因としましては下記のようなことが考えられます。

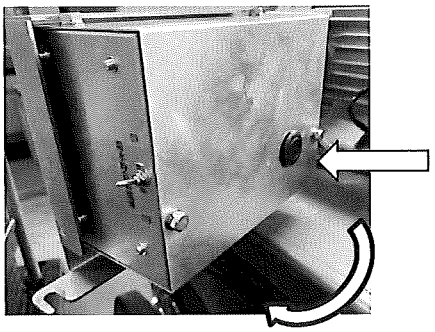
・電磁開閉器の接点不良　　・異物が挟まっている
・ケーブルの断線、損傷　　・端子のゆるみ等
・電源の欠相、欠損

上記のような場合は、販売店か弊社営業所に修理依頼してください。
まれに 振動や周辺温度が高くなることなどでもサーマルリレーが
作動する場合があります。
この場合、下記の手順にてサーマルリレーのリセットを行ってください。

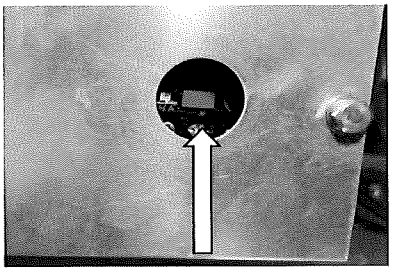
①上部カバーを開け 電源BOXを止めているボルト2本を緩めてください。




②電源BOXを回転させ裏面のグロメットを外してください。



③中に青い四角いスイッチが有ります。
④このスイッチを押すと サーマルリレーはリセットされます。



リセットスイッチ

# 仕　様　書

| | | |
|---|---|---|
| 品　　名 | | 電動高圧洗浄機 |
| 型　　式 | | JM620TP |
| 外形寸法（L×W×H mm） | | 1010 × 643 × 750 |
| 本体重量（kg） | | 115 |
| 吐出量（L／min） | | 23(50Hz)／27(60Hz) |
| 吐出圧力（MPa） | | 6 |
| 電気系統 | 電源 | 三相200V<br>電源コード 2スケ4芯×3m |
| | 自動運転機能 | 自動起動停止装置 |
| 水系統 | 主ポンプ | 三連プランジャーポンプ |
| | 電動機 | 三相 200V／3.7kW |
| | 水タンク（L） | 60 |
| 安全装置 | モーター過負荷保護装置 | サーマルリレー |
| | 圧力制御 | アンローダーバルブ |
| | 空運転防止 | フロースイッチ |
| 付属品 | 噴射ガン | タービンガン 1／4×(700) 1／8×161<br>引金レバー安全ロック機構付 |
| | 吐水ホース | 1／2 × 20m |
| | 吸余水ホース | 吸水 3/4×3m 余水 1/2×3m |
| | ストレーナー | 吸水ストレーナー(30メッシュ) 中間フィルター(40メッシュ) |
| その他 | 車輪 | 4輪φ200固定車輪 1ヶ所車輪ストッパー付 |
| | 吊環 | 1点吊り |

# メモ

## 株式会社やまびこ

〒198-8760 東京都青梅市末広町 1-7-2
Tel 0120-176-181（製品・技術的なお問い合わせ）
受付時間：弊社営業日 9:00～17:00

## やまびこジャパン株式会社

〒198-0025 東京都青梅市末広町 1-7-2 Tel 0428-32-1005（代）


ご用命の際はお買い上げいただいた販売店へご連絡ください。

©2023 株式会社やまびこ 著作権法により無断での複製、転載などは禁止されております。